

◆ NYダウ指数、日経平均株価、NASDAQ総合指数の推移 (24/1/4~25/11/25)



◆ 予想EPS・予想PER(日経225ベース)の推移(23/1/4~25/11/25)



< 日米株式市場とも 11 月は大幅な乱高下、AI 関連への投資マネー集中の反動が大きかった >

・ 11 月相場は一転して不安定化した。日経平均株価は 10 月 27 日に史上初の 5 万円突破後、11 月 17 日まで終値ベースで 5 万円台を維持したものの、日中に何度も 5 万円を割り込む乱高下が続き 18 日に「1620 円安」と急落して「4 万 8702 円 98 銭」と 16 営業日ぶりに 5 万円割れとなった。背景は、157 円/米ドル台まで円安が進展、対ユーロでも初めて 180 円/ユーロ台まで円安が進み、17 日に発表された 25 年 7~9 月期・実質 GDP 速報値が前期比 0.4%減（年率換算 1.8%減）と米国関税影響による輸出減少などでの国内景気不安も台頭した。米国株式市場の不安定化、NY ダウが 18 日まで 4 日連続で大幅下落、NASDAQ 総合指数も大手ハイテク決算が好調なのにも拘わらず、10 月 29 日の史上最高値から 17 日まで低調に推移し「5.2%」もの下落となったことも響いた。

・ この間、7 日の衆院予算委員会での高市首相の台湾問題に対する発言「存立危機事態」に対して中国側の日本への渡航自粛要請、日本産水産物の輸入再停止などの対応も不安を募らせ、日経平均株価を大きく左右する半導体・データセンター関連株への AI バブルを懸念する売りが集中したことも日本株市場を不安定化させた。しかし、基本的にはグラフを見ての通り、NASDAQ 総合指数、日経平均株価ともに投資マネーが AI 関連に強烈に集中し過ぎたことの反動とも言えよう。

< 米 NVIDIA は凄まじい好決算で高成長は止まらず、わが国企業業績の好調持続もあり得よう >

・ 注目の NVIDIA の 25 年 8~10 決算が 19 日に発表されたが、市場予想の前年同期比 56%増収・純利益 59%増益を上回る「65%増収の 570 億 600 万ドル（約 8 兆 9500 億円）、純利益 65%増益の 319 億 1000 万ドル（約 5 兆 500 億円）」という凄まじい好決算。11~1 月の売上高見通しも、65%増収の 650 億ドル前後と市場予想の約 620 億ドルを上回る全く死角のない好決算。NVIDIA は、AI 半導体で世界シェア 8 割と圧倒的、売上高の 9 割がデータセンター向け。毎年、バージョンアップした新製品を今後も出し続ける。一方、世界の大規模なデータセンター投資は当分の間は継続、恐らく 2030 年までに 100 兆円超規模のデータセンター投資が続くことになる。AI の進化スピードは加速し、例えば自動運転、AI エージェントの普及、ヒト型ロボット、そしては汎用人工知能「AGI」から人間を上回る人工超知能「ASI」へと辿り着くことになる。新たな「産業革命」であり、我々の日常生活は一変する。NVIDIA の高成長は当分、止まることはないだろう。

・ 11 月半ばに 25 年 4~9 月期（3 月期中間）の決算発表を終えた。前回（第 1 四半期決算）は米国関税の影響を強く織り込み 26 年 3 月期は全産業の経常利益が前期比 5.7%減と 6 年振りに減益となる見通しに対し、今回は 1.2%減と減益ながら大幅上方修正された。非製造業が建設、鉄道、ソフトバンク G、銀行の上方修正で前回 1.9%減から今回 5.6%増と一転、増益見通しになった。製造業は電機が大幅上方修正となったが資源・市況関連の化学、鉄鋼、非鉄の下方修正で前回 10.4%減が今回 9.3%減と厳しいままだが、全産業が 6 年連続の最高益となる可能性はあり得る。

・ 自動車 7 社合計の関税影響額は 2 兆 5175 億円、円高（前期 153 円→今期 145 円/ドル想定）1 兆 1006 億円、合計 3 兆 6181 億円の減益額で、全産業の前期比減益額 3 兆 6807 億円にほぼ等しい。為替は想定外の円安傾向、関税影響の緩和で自動車各社の業績は上振れ必至、非製造業も慎重なインバウンド効果の上乗せが期待される。来 27 年 3 月期は間違いなく増益見通しで 7 年連続の最高益となれば、強烈な株価上昇インパクトで改めて日経平均株価 6 万円を目指す展開となろう。